

平成 22 年 4 月 26 日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010 年4月30日】

団体名 児童養護施設 双葉園

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「生きづらさを持つ方への支援」—発達障害のあるお子さんへの支援について—

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

近年、発達障害のあるお子さんの増加が言われており、学校現場をはじめ、児童養護施設、母子支援施設など、お子さんを抱える現場ではその対応が急務となっています。しかし現状を見てみると、課題を多く抱えながらも、どのお子さんに発達障害があるのか分からない、どのように対応したらよいのか分からない、という声があがっています。対応を求められる一方で、それに伴う知識や技術が追いつかないのが現状です。そこで、本プロジェクトでは発達障害の一般的な理解をはじめ、体験を通しての理解、実際に抱えている課題を扱い、具体的な対応方法を身に付けることを目的に行なわれました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

プロジェクトは全3回行なわれました。第1回は、発達障害総論(PDD、AS、ADHD、軽度MR、LDの基本的理解)、ワークショップを通して発達障害のあるお子さんの困り感の体験、チームに分かれ実際に現場で起こっている問題の整理を行いました。第2回は、発達障害各論として、第1回で整理された問題に対する具体的な解決策が示され、その後、他職種のロールプレイを通してチーム援助の方法及び問題解決技法の体験を行ないました。第3回は、多様な支援方法について体験を通じた理解、自分達の持つ支援方法についてディスカッションを行いました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

工夫した点は、一つ目に、発達障害について文字だけの理解になることがないように、ワークショップやロールプレイなどを取り入れ、実感としての理解に繋がった点です。二つ目に、実際に職員が困っている問題を取り上げるなど、出来る限り現場の困り感に対応した内容にした点です。それにより、自分自身の課題に気付いたり、多角的な視点で物事を見ること、発達障害のあるお子さんや学校の先生などの他職種に対する共感性の向上など、文字だけでは得られない理解を得られていることが、プロジェクト終了後寄せられた感想文から分かりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

研修と言うとどうしても受身になりがちですが、今回の研修では職員の方々の積極的な参加が見られました。講師の先生とのやり取りだけでなく、様々なワークを通して職員同士のふれあいが多く、先生のお人柄もあって、終始笑顔の絶えない研修でした。また、子どもたちの困り感、職員の困り感を実感でき、さらに自分たちが今どれだけの支援力を持っているのか、何が足りないのかに気付けたことも良かったと思います。自分の中に課題を残しつつ、次のステップへ繋がる研修だったと思います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし



双葉園研修